

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| | | | | |
|----------------|----------------|-----------|-----|-----|
| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 27-174 | 高等学校 | 芸術 | 音楽I | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 89 友社 | 音I 312 | 改訂版 ON! 1 | | |

1. 編修の趣旨及び留意点

これからの芸術教育に求められるものは、さまざまな芸術体験を通して生徒一人一人の「生きる力」を育てること、芸術の技能・知識の習得と思考力・判断力・表現力のバランスを図ること、芸術活動を通してしなやかな感性と豊かな心を育てることである。この課題に応えることを趣旨として、本教科書では音楽という教科の特性を十分に生かしつつ、音楽活動の教育的価値を感受・思考・判断の調和的追究に求めて編集に当たった。

2. 編修の基本方針

時代の変化と生徒の実態に即した「個性的な教科書」を意図し、以下の諸点を編集の基本方針とした。
 (1) 高等学校学習指導要領・芸術科「音楽I」の目標・内容に則る。
 (2) 中学校音楽からの継続性と「音楽II」への発展性を重視して内容を構成する。
 (3) 基礎的・基本的な音楽能力の育成を目指して、表現と鑑賞の関連を図り、参考資料を豊富に取り入れて学習効果を高める。

3. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|---|---|--|
| 【全体の構成】 学習指導要領の内容構成にしたがって全体を「歌おう」(歌唱)、「奏でよう」(器楽)、「学んで知ろう、聴いて楽しもう」(鑑賞)、「つくろう」(創作)の4部構成とした。 | 「豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」を期し、音楽についての幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操としなやかな感性を培うことを目指す(前文/第1号)。 | p.12-77 p.78-107 p.108-137 p.138-144 |
| 【歌唱】 歴史、生活、環境との関わりの中で生徒が自らのアイデンティティを見つめ直す観点として「Then and Now」「Classics」「World」「Chorus」の四つを設定した。 | 生徒一人一人の価値観を尊重して、その音楽的な能力を伸ばす中で創造性を培い、生涯にわたって音楽と関わり続けるような自主及び自律の精神を養う(第2号)。 | p.12-31 p.32-49 p.50-65 p.66-79 |
| 【器楽・創作】 身体リズム表現から、キーボード、ギター、リコーダーなどによる合奏を経て、和楽器の習得に挑む。創作では旋律作りとともに音素材を生かす活動を重視した。 | 芸術教育の目標が達成されるためには、生徒が自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して指導を展開する必要がある(第6条第2号)。 | p.80-81 p.82-95 p.99-107 |
| 【鑑賞】 和楽器体験に基く日本音楽や郷土の伝統音楽の感得、諸外国・諸民族の音楽の理解を経て西洋音楽の歴史認識とミュージカルやポピュラー音楽の特質に迫る。 | 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う(第5号)。 | p.108-113 p.114-117 p.118-129 p.130-131 |
| 【内容の取り扱い】 冒頭の「音楽をはじめよう」の導入機能がその後の諸活動に生きて働くような連動作用を仕組んで、生徒の学習意欲の喚起をうながした。 | 芸術教育の目標が達成されるためには、生徒が自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して指導を展開する必要がある(第6条第2号)。 | p.5⇔p.12, p.6-7⇔p.84, p.8-9⇔p.28, p.9⇔p.36 など |

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ①基礎的な音楽能力の育成を目指して、教科書全体を学習指導要領の領域構成にしたがって四つの「領域ブロック方式」で構成し、それらの相互関連を重視した編集を行った。
- ②鑑賞教材の編修に際しては、楽しい学習展開を意図して、音楽のさまざまなジャンルから生徒の心情に適した楽曲を選定するとともに、それらの理解に有益な関連情報や豊富なカラー資料を掲載した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

| | | | | |
|----------------|----------------|-----------|-----|-----|
| ※受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 27-174 | 高等学校 | 芸術 | 音楽I | |
| ※発行者の 番号・略称 | ※教科書の 記号・番号 | ※教 科 書 名 | | |
| 89 友社 | 音I 312 | 改訂版 ON! 1 | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

芸術科「音楽I」では、「音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める」ことが求められている。この課題に応えるため、本教科書では音楽の知識・技能を学ぶ出発点として「音楽をはじめよう」のコーナーを設け、その学習が「4領域ブロック」の全体に波及する仕組みを構築した。この演繹的アプローチが今日の高校生の価値観形成に生きて働くよう、「感受・思考・判断」の調和的追究に意を注いだ。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 | 配 当 時 数 |
|---|---|--|------------------|
| 【導入:音楽をはじめよう】 ●リズムに乗って ●メロディーに乗って ●ハーモニーに乗って ●詩と音楽 | 音楽を形づくっている要素, 詩と音楽などの観点から, 音楽活動の基礎・基本を学ぶ筋道を展開することに意を注いだ [3取扱(3)]。 | p.4-11 | |
| 【歌おう】 ●Then and Now (昔と今) ●Classics (ヨーロッパと日本の名歌を訪ねて ●World (日本・世界の民族の心に触れる) ●Chorus (合唱の楽しみ) | 4主題の中に生徒に親しまれている歌, 日本や世界の名歌, 計53曲を様々な形態で担当した[2A表現(1)歌唱アイウエ, 3取扱(4)(7)]。 | p.12-31 p.32-49 p.50-65 p.66-79 | |
| 【奏でよう】 ●体を楽器に(ボディ・パーカッション) ●楽器にチャレンジ(キーボード/ギター/リコーダー) ●わたしたちの和楽器(箏/三味線/尺八/篠笛/太鼓) | 少人数のアンサンブルにも履修クラス単位の合奏にも向く教材編曲に工夫をこらした[2A表現(2)器楽アイウエ, 3取扱(4)(7)]。 | p.80-81 p.82-98 p.99-107 | |
| 【学んで知ろう, 聴いて楽しもう】 ●日本音楽史と鑑賞 ●郷土・アジア地域・諸外国の音楽 ●西洋音楽史と鑑賞 ●ミュージカル/ポピュラー音楽 ●作曲家・音楽史年表 | 和楽器演奏を組み込んだ日本伝統音楽の理解に立って西洋音楽その他の音楽の理解を導いた[2B鑑賞アイウエ, 3取扱(1)(4)(7)(8)]。 | p.108-111 p.112-117 p.118-129 p.130-133 | |
| 【つくろう】 ●言葉はリズム・メロディーに乗って ●メロディーはベース・ハーモニーに乗って ●Make Your Own Music! | 音楽の要素を関連させた旋律創作と, 音素材の反復・変化・対照による音楽づくりで構成した[2A表現(3)創作アイウエ, 3取扱(5)]。 | p.138-139 p.140-143 p.144 | |
| | | 計 | |